



大胡小学校

学校だより No. 10

TEL: 283-2064

<http://menet.ed.jp/oogo-es/>



全校朝礼

7月3日(水)

一学期最後の全校朝礼がありました。表彰と校長・生徒指導担当から話がありました。しっかり話を聞くことができました。

●表彰

歯科保健作品展、母の日作文コンクール、県総合体育大会、中毛地区剣道大会、市陸上競技記録会、群馬リレーカーニバル、市剣道交流会、人権標語作品の入賞者の表彰がありました。計9人が表彰されました。おめでとうございます。

●校長の話

「終わりよければ すべてよし」

みなさん、おはようございます。

さて、あと10日ほど学校に来ると夏休みになります。夏休みにやることを決めましたか。まだの人もいます。校長先生は、たまっている本を読むことと、旅行に行くことと、体を鍛えることに決めました。そのことについては、二学期にお話ししたいと思います。

さてさて、あと10日ぐらいで夏休みということは、一学期は後10日で終わりということです。昨日も1年生と6年生の授業を見に行きましたが、先生も1・6年生も、みなさん一生懸命に勉強しているのを見て、たいへんうれしくなりました。ところで、みなさん、一人一人にとって、楽しい一学期になったでしょうか。楽しいというのは、勉強が分かるようになって楽しい、運動ができるようになって楽しい、友だちがたくさんできて楽しいということです。

「終わりよければ すべてよし」ということわざがあります。「終わりが大事だよ。」という意味です。学校は一学期が終わると夏休み、二学期、冬休み、三学期と続きます。一学期がしっかり終われると、楽しい夏休みが始まるということだと思います。一学期頑張ってきた人も、頑張れていないと感じている人も、残り10日間頑張らましよう。そして、気持ち良く夏休みが迎ええられるようにしましょう。何を頑張れば良いか、まずは自分で考えましよう。分からない人は担任の先生に聞いてみましょう。

●生徒指導担当から

・4月から指導している、「校内を落ち着いて行動しよう」について、良くできているという話がありました。
・次に、外遊びから教室に戻るのに時間がかかるという問題点が出されました。例えば、チャイムが鳴った時に、シュートチャンスが来ました。①ボールを持ってすぐに教室に戻る。②シートをけてしまう。どちらが良いでしょうか、という問題が出されました。もちろん全員が、①と答えました。きっと守ってくれると思います。

田植え体験

7月2日(火)

JA大胡支所西の田んぼで田植え体験をしました。5年生の社会科と総合的な学習の時間で日本人の主食である米について調べる勉強があります。そして、昔の手植えによる体験をし、米作りの工夫や苦勞を知るために行われました。裸足になって田んぼの中に入ると、その感触に悲鳴を上げている児童もいました。次第に慣れてくると楽しみながら手で一つ一つ植えていました。これから稲の成長を観察しながら収穫まで体験し、分かったことをまとめていきます。また、3学期にはできた餅米を使って、「おこわパーティー」を開く予定です。

なお、今回お世話になったJA・JA青年部の方、保護者ボランティアのみなさん、ご支援ありがとうございました。
(5学年主任 田中)



校内研修①

7月2日(火)

どの学校でも、教員の研鑽を深めることを目的に校内で研修を行っています。今回は、スクールカウンセラーの佐藤絹恵先生にお願いして、子どもへの支援の方法について講話してもらいました。ご家庭でもご活用できる場所もあるかと思しますので、何回かに渡ってご紹介します。

●自分をうまく表現できない子、話すのが苦手な子

・ 本人が言わんとしていることを先生が代弁する。「言いたいことはこういうことかな」など。こういう時にはこうしたらいいよなど教え、練習をする。

●友だち作りが苦手な子：かかわり方が分からない、声のかけ方、話の内容、雑談できないなどが要因。

・ 最初は聞き役で十分ということを教える。
・ 勇気が出れば、隣の席の子に話しかけてみるよう勧める。例えば、前日行ったこと、面白かったテレビの番組やゲームのことなど、話す内容を具体的に示す。
・ 先生と話ができるようにし、話すことに自信をつけさせる。
・ 中には「1人がいい」という子もいるが、「趣味のことなど、楽しく話せる友だちが1人でもできるといいね」と声をかけておく。

●気に入らないことがあると、怒ってしまう子（暴言暴力）。落ち着くまで時間がかかる。

①まず、頭ごなしに叱責しない（さらに興奮する）。

②授業中で他の子に影響する場合には、「話を聴くから、〇〇に行って落ち着こう。」「休み時間に話を聴くからね」と声をかける。本人が待てない場合には、他の先生に話を聴いてもらう。

③何が気に入らなかったのか、本人に確認、話してもらう。話せない場合には、「〇〇が嫌だったのかな」「××が悔しかったのかな」などと声をかけ、共感し、受容する。

⇒ 先生が共感すると、児童は自分の気持ちを冷静に、客観的に受け止めることができるようになる。

④たとえば、「そうか…。でも仕方ないよね」「次、頑張ろうよ」などと声を掛け、我慢できるようにしていく。我慢できた時にはすぐ褒める。

⑤早めに立ち直った時には、「今は〇分で落ち着いたね。偉いね」などと具体的な時間を伝えて、褒める。

⑥落ち着いた段階で、暴言や暴力ではなく、自分の気持ちや言いたいことを相手に分かるように表現できるように具体的に教える。たとえば、

「死ね！と言っちゃうくらい、腹が立っているんだ。今度から、こういうことが気に入らなかったと言葉で伝えよう」

「先生は〇〇さんの暴力はすごいショックだった。暴力はいけないことだと分かっているよね。反省してもう暴力を振るわないと約束してくれるかな」など。

少しずつ実際場面で使えるようにしていく。⇒褒める

⑦反抗的な場合には、「〇〇さんが話をしてくれると、先生はうれしいな」など、アイメッセージで話しかける。

⑧暴力を振るいたくなったらどうしたらいいか、前もって取り決めておく。

- ・ 落ち着くまで深呼吸（クラス全員でもOK）。
- ・ 水を飲みに行く。
- ・ 本人なりに落ち着ける場所でしばらく気分転換など。
- ・ 10数える。

●友だちと上手にかかわれず、トラブルになってしまうことがある子

①先生や周りの友だちが本人の言い分を聞く。上手く説明できない時には、代弁して、合っているかどうか確認する。⇒ 気持ちが落ち着く

②落ち着かせる魔法の言葉（呪文）を教えたり、自分でも考えてもらう。「落ち着け」「大丈夫」「平気」など。

③トラブルになりそうな時に、心の中で魔法の言葉を言ってもらう。できれば大いに褒める。

④他の子とトラブルなく仲良くできたことを体験すると、「これさえ言えば友だちと上手くいく、仲良くやれる」という自信に繋がる。⇒ 魔法の言葉を言わなくても、他の子と落ち着いて話したり、相手の話に妥協できるようになる。

⑤表情の読み取りや、相手の気持ちを選択肢の中から選ぶなどの学習で、対人理解を育んでいく。

次回、続きを掲載したいと思います。なお、習ったことを活用して、各学級取り組んでいきたいと考えます。お気づきのことがありましたら、お声かけください。

※佐藤先生は、長い間、中部教育事務所でスーパーバイザーとして勤務された方です。知識と経験が豊富な先生です。現在は、スクールカウンセラーとして、本校に年15回来校し、子ども・保護者のカウンセリング・学級での人間関係づくりの指導をしてくれています。相談を希望される方は、遠慮無く学校に連絡をしてください。